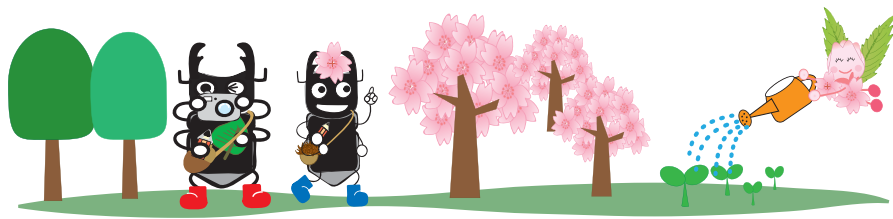


Ⅲ 森林環境教育（森林 ESD）活動報告事例



全活動団体一覧表

番号 対象	活動団体等	主な活動場所等	活動の分析から ESDの要素(生きる力)の視点で重視する項目							掲載 ページ
			能力				態度			
			1 批判的に考える力	2 未来像を予測して計画をたてる力	3 多面的、総合的に考える力	4 コミュニケーションを行う力	5 他者と協力する態度	6 つながりを尊重する態度	7 進んで参加する態度	
H29 1 幼稚園	すみだこども園 橋本ひだまり倶楽部(和歌山県)	和歌山県橋本市 ひだまりの郷			○	○	○	○	20	
H29 2 幼稚園	森のようちえんウイズ・ナチュラ(奈良県) 明日香森林環境教育フィールドForest River	奈良県 明日香村内				○	○	○	27	
H29 3 幼稚園	森のようちえん ことこと 木こりの会(岡山県)	岡山県津山市神代				○	○	○	33	
H29 4 幼稚園	公益社団法人 京都市保育園連盟 八瀬野外保育センター(京都府) 京都市内の保育園・幼稚園	京都市左京区八瀬							37	
H29 5 幼稚園	吉野町教育委員会・町立わかばこども園 森林インストラクター(奈良県)	奈良県吉野町内			○	○		○	39	
H27 1 小学校	特定非営利活動法人 キッピーフレンズ(兵庫県)	兵庫県三田市 兵庫県立有馬富士公園			○	○	○		46	
H27 2 小学校	京都森林インストラクター会(京都府)	京都市 衣笠山国有林			○	○	○		49	
H27 3 小学校	大山横手道上ブナを育成する会(鳥取県)	鳥取県伯耆町立八郷小学校 大山国有林外			○		○	○	53	
H27 4 小学校	岡山県西粟倉村教育委員会(岡山県)	岡山県西粟倉村内			○	○	○	○	57	
H27 6 小学校	特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21(大阪府)	豊中市立環境交流センター 豊中市立青少年自然の家			○		○	○	62	
H27 7 小学校	特定非営利活動法人 クワガタ探検隊(大阪府)	大阪府箕面市 箕面公園滝道 外		○			○	○	65	
H27 8 小学校	特定非営利活動法人 イー・ピーイング(大阪府)	大阪府泉南市 紀泉わいわい村の里山、奈良県吉野町、大阪市内			○		○	○	68	
H27 9 小学校	極楽橋森林整備プロジェクト実行委員会(和歌山県)	和歌山県伊都郡高野町 高野山国有林外			○				71	
H27 10 小学校	特定非営利活動法人 バイオマス丹波篠山(兵庫県)	兵庫県篠山市内小学校、里山			○	○		○	75	
H27 11 小学校	公益財団法人 吉野川紀の川源流物語(奈良県)	奈良県吉野郡川上村吉野川源流 森と水の源流館			○		○		79	
H28 1 小学校	NPO法人里山倶楽部 河南町立河内小学校(大阪府)	大阪府南河内郡河南町 弘川寺歴史 と文化の森、茶の木原学校林			○	○		○	82	
H28 3 小学校	森と水の源流館 川上村立川上小学校(奈良県)	奈良県橿原市、吉野郡川上村			○		○		86	
H28 4 小学校	下松市立米川小学校(山口県) 米川地区教育造林振興会	山口県下松市 米川小学校校区				○	○	○	90	
H28 5 小学校	庄原市立峰田小学校(広島県) アサヒグループホールディングス(株)アサヒの森環境保全事務所	広島県庄原市 峰田小学校 アサヒの森			○		○	○	94	
H28 6 小学校	箕面市立豊川北小学校(大阪府) (箕面森林ふれあい推進センター外)	大阪府箕面市 箕面国有林、 箕面市立豊川北小学校			○	○	○		100	
H28 6 小学校	箕面森林ふれあい推進センター 大阪森林インストラクター会 箕面ピジターセンター(箕面市立豊川北小学校)	大阪府箕面市 箕面国有林、 箕面市立豊川北小学校			○	○	○		104	
H29 6 小学校	橋本市立清水小学校 橋本ひだまり倶楽部(和歌山県)	和歌山県橋本市 ひだまりの郷			○	○	○		108	
H29 7 小学校	土地に根ざした学びの場・まるやま組 輪島市立三井小学校(石川県)	石川県輪島市三井町	○		○		○		117	
H29 8 小学校	箕面市立止々呂美小学校(とどろみの森学園) NPO法人とどろみの森クラブ(大阪府)	大阪府箕面市森町			○	○		○	123	
H28 2 中学校	一般社団法人 比良里山クラブ 大津市立志賀中学校(滋賀県)	滋賀県 大津市立志賀中学校校区	○	○	○				128	
H27 5 高校	学校法人 YMCA学院高等学校(大阪府)	大阪府下の森林ボランティア団体活 動地、YMCA学院高等学校			○		○	○	132	



活動団体一覧表(幼稚園編)

番号	活動団体等	主な活動場所等	活動の分析から ESDの要素(生きる力)の視点で重視する項目							掲載ページ
			能力				態度			
			1 批判的に考える力	2 未来像を予測して計画をたてる力	3 多面的、総合的に考える力	4 コミュニケーションを行う力	5 他者と協力する態度	6 つながりを尊重する態度	7 進んで参加する態度	
H29 1	すみだこども園 橋本ひだまり倶楽部(和歌山県)	和歌山県橋本市 ひだまりの郷			○	○	○		○	20
H29 2	森のようちえんウィズ・ナチュラ(奈良県) 明日香森林環境教育フィールドForest River	奈良県 明日香村内				○	○	○		27
H29 3	森のようちえん ことこと 木こりの会(岡山県)	岡山県津山市神代				○	○		○	33
H29 4	公益社団法人 京都市保育園連盟 八瀬野外保育センター(京都府) 京都市内の保育園・幼稚園	京都市左京区八瀬								37
H29 5	吉野町教育委員会・町立わかばこども園 森林インストラクター(奈良県)	奈良県吉野町内			○	○			○	39

事例報告 H29-1(1)

団体名: すみだこども園(橋本ひだまり倶楽部) (和歌山県)

プログラム名: 森とともに ～自然の中で共に育ちあう～				
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・森へ一歩踏み出してから味わう何とも言えない解放感や楽しさを充分に楽しむ。 ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り五感を働かせながら感じたことを表現する。 ・木工体験では「自分で作る」「自分でできた」という気持ちを大切に最後まで作り上げる。また、身近にある自然物を使っていろんなものが作れるということを知る。 			
(2) プログラムの概要	<p>★4歳児の11月に初めてひだまりの郷に足を踏み入れ森へ探検に行く。 木工体験では、くまさんペンダントを作る 1日の振り返り(絵本・発表)</p> <p>★5歳児の5月に再びひだまりの郷へ行く。ロープ1本をたよりに山登りに挑戦する。 木工体験では、間伐した竹を利用して初めてのこぎりに挑戦。貯金箱や花瓶など作る。 1日の振り返り(絵本・発表)</p>			
(3) プログラムの展開				
時間数	プログラムタイトル			
	<table border="1"> <tr> <th>活動内容</th> <th>指導・支援の方法、ポイント等(教材等)</th> </tr> <tr> <td colspan="2">in、about、for の視点で活動内容を区分</td> </tr> </table>	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等(教材等)	in、about、for の視点で活動内容を区分
活動内容	指導・支援の方法、ポイント等(教材等)			
in、about、for の視点で活動内容を区分				
1	打ち合わせ			
	<table border="1"> <tr> <td>ひだまりクラブとこども園の職員と事前打ち合わせ 担当がグループ分けをする</td> <td>ひだまりの郷での過ごし方について話し合う 探検コースの確認 服装の確認(山に入る時は季節を問わず長袖・長ズボン) グループ分けをすることで仲間意識を高める</td> </tr> </table>	ひだまりクラブとこども園の職員と事前打ち合わせ 担当がグループ分けをする	ひだまりの郷での過ごし方について話し合う 探検コースの確認 服装の確認(山に入る時は季節を問わず長袖・長ズボン) グループ分けをすることで仲間意識を高める	
	ひだまりクラブとこども園の職員と事前打ち合わせ 担当がグループ分けをする	ひだまりの郷での過ごし方について話し合う 探検コースの確認 服装の確認(山に入る時は季節を問わず長袖・長ズボン) グループ分けをすることで仲間意識を高める		
about 情報の共有・安全確認				
40分～1時間	ひだまり探検隊スタート			
	<table border="1"> <tr> <td>ひだまりクラブを先頭に森に入っていく。 4歳児探検 5歳児山登り・探検</td> <td>森の中の約束事を聞く。 (AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない) 森の中の不思議に会い、見たり、においをかいだり、触ったり、耳を澄ませたりする。</td> </tr> </table>	ひだまりクラブを先頭に森に入っていく。 4歳児探検 5歳児山登り・探検	森の中の約束事を聞く。 (AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない) 森の中の不思議に会い、見たり、においをかいだり、触ったり、耳を澄ませたりする。	
	ひだまりクラブを先頭に森に入っていく。 4歳児探検 5歳児山登り・探検	森の中の約束事を聞く。 (AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない) 森の中の不思議に会い、見たり、においをかいだり、触ったり、耳を澄ませたりする。		
in 森の中での探検				
40分	木工体験			
	<table border="1"> <tr> <td>ひだまりの郷に落ちている木や枝そして、間伐した竹を使う。</td> <td>グループごとに分かれる(各グループにスタッフか職員が入る) 目の前にある木々がひだまりの郷でとれたものだを知る。グループの仲間と協力し、困ったことがあれば助け合い、自分の声に出して助けを求める。 世界に一つだけの作品完成。</td> </tr> </table>	ひだまりの郷に落ちている木や枝そして、間伐した竹を使う。	グループごとに分かれる(各グループにスタッフか職員が入る) 目の前にある木々がひだまりの郷でとれたものだを知る。グループの仲間と協力し、困ったことがあれば助け合い、自分の声に出して助けを求める。 世界に一つだけの作品完成。	
	ひだまりの郷に落ちている木や枝そして、間伐した竹を使う。	グループごとに分かれる(各グループにスタッフか職員が入る) 目の前にある木々がひだまりの郷でとれたものだを知る。グループの仲間と協力し、困ったことがあれば助け合い、自分の声に出して助けを求める。 世界に一つだけの作品完成。		
in 木工体験 作る楽しさを味わう				
20分	振り返り			
	<table border="1"> <tr> <td>絵本の読み聞かせ 1日の振り返り(一言発表)</td> <td>四季折々の話や動植物の話を経本を通して楽しむ。 自分の思いを整理して言葉で振り返り仲間同士共感し合う。</td> </tr> </table>	絵本の読み聞かせ 1日の振り返り(一言発表)	四季折々の話や動植物の話を経本を通して楽しむ。 自分の思いを整理して言葉で振り返り仲間同士共感し合う。	
	絵本の読み聞かせ 1日の振り返り(一言発表)	四季折々の話や動植物の話を経本を通して楽しむ。 自分の思いを整理して言葉で振り返り仲間同士共感し合う。		
about 情報交換・発表				
(4) プログラムでの連携内容 (教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)				

<p>①連携・協働先 橋本ひだまりクラブ と すみだこども園 （4歳児50名・5歳児69名） 和歌山県緑化推進会 緑の募金事業</p> <p>②役割分担 ひだまりクラブ→プログラムの指導・郷土の森の点検・木工の準備・豚汁の準備 等 すみだこども園→保護者様への連絡・園児プログラム実施・園児の安全確保・事後の保護者様への連絡 等</p> <p>③具体的な連携・協働の内容 緑の募金事業をとおして、補助金を受ける。</p>	 
--	---

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位３項目

教科・項目、視点	学習内容
自然との関わり・生命尊重	自然にふれて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心を高める。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみを持って接し、いたわりを大切にす気持ちをもつようになる。
協同性	友だちと関わる中でお互いの思いや考えなどを共有し、考えたり、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げる。共に育ち、学びあいながら豊かな経験を積み重ねる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事に触れ感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり友だち同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	<p>〈進んで参加する態度〉 森の中での空気や匂い、木々の色や植物に興味を示し、五感を働かせて自分なりに感じたことを新しい知識として習得し自ら自然を身近に感じていけるようになる。</p>
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	<p>〈コミュニケーションを行う力〉 一日の振り返りの時間を持ち、自分なりに感じたことを自分の言葉で相手に伝え、また友だちの思いを聞くことで言葉による表現を楽しむようになる。</p>
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	<p>〈協力する態度〉 木工体験を通して、何を作るか目標を持って取り組む中で、友だちと協力して竹を選び運んだり、友だちと意見を出し合い充実感を味わいながらやり遂げる。</p>

（７）実施後、参加者の変化

木工体験で作った作品を家に持ち帰り、コップを鉛筆立てにしたり、貯金箱も活用し、大切に使っている様子を聞くことが出来た。
また、園周辺お散歩で赤い実を見つけて「これは何んの実かなあ？」と友だち同士相談したり、図鑑で調べたりする姿がある。また、冬イチゴを見つけ、「ひだまりで教えてもらった葉っぱと同じやからこれは冬イチゴや！！」と お土産にもって帰ってきてくれる姿もあった。
そして、休日にはひだまりの郷がどんどころなのかと家族で見に行ったという報告も聞いています。



森とともに ～自然の中で共に育ちあう～

和歌山県 橋本市



社会福祉法人 顕陽会 すみだこども園

★人口 62310 人★

橋本市には 子どもも大人も生き生きと過ごせる場所があります



園児 233 人
職員 46 名

教育・保育目標

- ☆心身ともに豊かな子ども
- ☆たくましい身体づくり
- ☆思いやりのある子ども
- ☆意欲の持つ子ども
- ☆自分で考えて行動できる子ども

4歳児は、11月に
ひだまりの郷へ



元気よく
おはようございます
(スタッフの方々と挨拶)



森へ出発！！



雨の日だって探検に行きます！



子どもたちの目は、キラキラ★しています。
目で見て、匂いをかいで、触って・・・
自然と五感が働きます。人間の本能でしょうか。

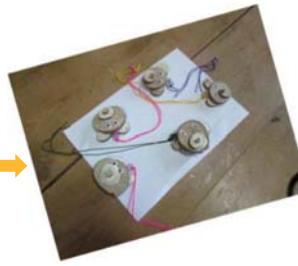


子どもたちが自ら動いて何かを発見し、友達に知らせ共感している姿をたくさん見ることが出来ます。自然は、人と人とを繋げてくれる力を持っています。



木工体験

くまさんペンダント



自然の恵みを利用して・・・
くまさんを作ります・・・
指先を使って丁寧に・・・
自分で作った世界に一つだけの
ペンダント完成！

❁1日 楽しかったね。❁



子どもたちの心は、おいしい空気と
新しい発見でいっぱいです。

木工体験



そして、5歳児として再び
5月にひだまりの郷へ・・・

ロープ 1本を頼りに 自分力で登ります

自分で作る・・・自分で出来たという気持ちを大切にしています



ノコギリに挑戦！



グループのお友だちと意見を出し合い、
協力する姿がみられました。



1日の振り返り

楽しかったことや頑張ったことを
心の中で整理をして言葉で発表します。



かなへびを発見！

命あるものに出会い命の尊さについて心をかたむけます。




日常の保育とひだまりの郷での活動を結びつけながら、家庭ではなかなか出来ない体験を、
存分に楽しみ心の栄養にしながら、たくさんの人に感動体験を伝えていってほしいと思います。
それが、森林ESDの活動につながるのかなぁと感じております。

事例報告 H29-1(2)

団体名： 橋本ひだまり倶楽部(すみだこども園) (和歌山県)

プログラム名： 「みつけて ふれて わくわくドキドキ!!」 森あそび保育実践プロジェクト	
(1) プログラムの目標	<p>①市内外のこども園・幼稚園・保育4園を対象に、各クラス毎、年2回の活動を行っています。生まれて初めて森あそび体験をする園児ばかりです。初めての森林体験の「着地」を大切に、心地良く「楽しかった!」「また来たい!」を目標にしています。</p> <p>②森林の持つ不思議発見や、危険性・服装についても知ってもらうようにしています。</p> <p>③遊具やおもちゃがなくても、自分たちで遊びを見つけて遊びます。</p> <p>④森あそびプロジェクトの為に、たくさんのスタッフが関わっていることを伝えます。</p>
(2) プログラムの概要	<p>①どの園も4歳児、または、5歳児を対象の森あそび保育になります。</p> <p>②森の探検</p> <p>③季節と年齢によって、④または⑤を選択する。</p> <p>④木工体験・・・クマさんペンダント 木の名札作り</p> <p>⑤ノコギリ体験・・・前日用意した竹をノコギリを使って切る。切った竹をコップや貯金箱にする</p> <p>⑥読み聞かせ (絵本・紙芝居)</p> <p>⑦一日の振り返り→いちばん楽しかったこと発表!</p>
(3) プログラムの展開	
時間数	プログラムタイトル
	活動内容 指導・支援の方法、ポイント等 (教材等)
in、about、for の視点で活動内容を区分	
1時間	打合せ
	<p>・園の主任・担任職員・副園長たちと、プログラムについて打合せを行う。</p> <p>服装・着替え・季節によつての森の様子。プログラム内容や時間の確認、クラスの特徴などの打合せを行う。</p>
1時間	for
	<p>森の約束・森の探検</p> <p>①森の約束</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児編 ・教諭編 ・探検編  <p>園児・トイレ・危険回避について 教諭・AKDの約束→危ない・汚い・ダメを言わない 探検・蜂が来たら 雨の日の歩き方など</p>  
1時間	in
	<p>森の工作 (またはノコギリ体験)</p> <p>①木工工作体験</p> <p>②ノコギリの使い方</p>  <p>森の恵みを使い、世界にひとつの工作を製作する。 雨天以外は屋外で製作している。 初めて使うノコギリは、コツを覚えれば一段と上手になっていく。園児に相応し使い方を教える。</p>  
30分	about
	<p>読み聞かせ・振り返り</p> <p>①季節や森に関連した絵本を見つけ、森の中で読み聞かせを行う。</p> <p>②帰りの挨拶の前に、園児から、今日一番楽しかったことを話してもらう。</p> <p>図書館に足を運び、内容を点検し、季節や当日のプログラムに合せた絵本を読み聞かせするようにしている。帰りの挨拶の際は、お世話になったスタッフへの感謝を表してくれる。締めくくりとして3名限定で今日一番楽しかったことを聞いている。</p>
(4) プログラムでの連携内容 (教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)	

<p>①連携・協働先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外こども園・保育園・幼稚園4園 ・（すみだこども園 応其こども園 九度山保育所 あやの台チルドレンセンター） ・和歌山県伊都振興局林務課 ・橋本ひだまり倶楽部 <p>②役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各園とのプログラム打合せを行う ・和歌山県伊都振興局へ見積書等の確認 ・橋本ひだまり倶楽部では、スタッフと打合せ（材料調達・森林の安全確認・下草刈り） <p>③具体的連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県伊都振興局の見学・各新聞社への連絡 	
---	--

（５）活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	森にわくわく・ドキドキした気持ちを溢れんばかり持って園児はやってきます。森に入り、今まで知らなかったこと、初めて体験することを通じ、感性の幅が広がります。風の音も、鳥のさえずりも意識して聞くことも覚えます。
森林の自然的特性	森に棲む生き物や、昆虫や爬虫類に出会うことがあります。みんな森の仲間だとういことを話し、それぞれ命があることを知ります。天候や季節によって、森の過ごし方を変えていくことも、実際に森に入って経験します。
管理・維持	園児が森林に入る為に、ケガや事故が起こらないようスタッフが前もって安全点検をしていることを話します。また、木工工作に必要な材料は、森の中でスタッフが集めたり、木を切って準備した大切なものであることを伝えます。

（６）活動の分析（資質・能力の視点）

項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	「コミュニケーションを行う力」 園児にとって、初めての森林体験はわくわくもあり、ドキドキの期待と不安が入り混じった中で、唯一、いつも一緒に過ごす友達との関係は大きい。協力しあったり、声掛けしたり、注意をしたり、大人の指示でなく、自らがコミュにケーションを発揮している姿を見ることが多い。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「多面的、総合的に考える力」 普段の生活では遭遇しない危険が森の中にはあり、森の約束の中に危険の話を取り入れることで、自ずと危険回避の為の判断をしている。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「進んで参加する態度」 森林体験の中で、園児の持つ素直な心がしっかり表現できているのが森で過ごす時間である。森の中で感じるウキウキ感や、ワクワク感も手伝い、怖かったり不安に感じることも、互いが声を掛け合ったり、積極的に先頭に出る園児が全体を引っ張ってくれたり、就学前の園児とは思えない行動が見られる。

（７）実施後、参加者の変化

- ①どの園も森林の持つ自然感や園児の生き生きと目を輝かせる姿に、再度、森林体験を園のプログラムの中に取り入れたいと考えています。
- ②園児ばかりでなく、教諭たちも、園児と共に森林体験を楽しんでいます。
- ③森の約束を園児たちとも交わしますが、AKDの約束を教諭とも交わします。
 - ・A・・・危ない!
 - ・K・・・汚い!
 - ・D・・・ダメ!
 - ・危険な時は命を張って守ってください。→先生との約束は、園児に人気です。



森で過ごす時間は

わくわくどきどき!!

楽しいは

こどもが見つけます

こども園協働 森林ESD

橋本ひだまり倶楽部

事例報告 H29-2

団体名： 森のようちえんウィズ・ナチュラ (奈良県)
 明日香森林環境教育フィールド Forest River

プログラム名： 森のようちえんから広がる、里山の人・世代・未来		
(1) プログラムの目標	森のようちえんウィズ・ナチュラの園児と保護者、職員が明日香森林環境教育フィールド Forest Riverのスタッフと共に、里山整備や環境教育イベントでの交流を通じてお互いの課題をサポートしながら、自然とのふれあいや里山保全等の大切さを学び合う。子どもに教えるというよりは、大人も共に体験し学ぶことを大切にしている。大人が意欲的にかつ楽しく里山活動をしている姿を見せることが大事だと考えている。	
(2) プログラムの概要	明日香村栢森にある数カ所のForest River所有のフィールドにて、平日や土曜日に保育と親子参加のクラスを行う。それに伴い、子ども達が安全に遊べるようにForest riverのメンバーに指導や援助を受けながら、職員や保護者が里山整備に関わらせてもらっている。子ども達も手伝いながら、自分たちが遊ぶ場所で大人が自分たちのために協働して動く姿を見ている。 年間数回あるForest Riverの環境教育イベントにスタッフとして参加し、自然と人との関わりを学び、自らそれに対してできることを考える機会としている。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等 (教材等)
in、about、for の視点で活動内容を区分		
25	環境教育イベント しいたけホダ木作り・菌打ち体験 田植え・稲刈り体験、野菜や果実収穫 夏体験 (そうめん流し、木工製作) 冬体験 (リース・門松作り、餅つき) 等	農業体験や行事食を通して日本の伝統的な食と命について考える機会を持つ。木工製作では、自然物から想像して作る喜びを感じる。
		
5	森林整備体験 地元の若手林業家の久住氏にレクチャーしてもらい、森林整備や日本の森林や林業の歴史を知る。	森林に入り、山全体や木の状態を伝え、実際に重機を使って林道整備している様子を見せる。
		
製作準備 8	神奈備舞台で竹灯り 地元でのお祭り「飛鳥光の回廊」に合わせて竹灯りでライトアップ。	竹の切り方や穴あけの仕方を教わり、大人が竹を切ったり、竹ひごを作り、子ども達は、和紙に葉っぱで叩き染をして竹灯籠を作成した。電気を使わず、ローソクと竹のあたたかな灯りの良さを感じた。
		
10	フィールド整備 草刈り 防災カマド設置 砂場設置 等	子ども達の安全のためやスムーズな保育ができるよう、Forest Riverのスタッフの指導のもと整備をする。子ども達も自分ができることを手伝う。
		
(4) プログラムでの連携内容 (教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)		

- ①明日香森林環境教育フィールドForest River
- ②森のようちえんウィズ・ナチュラがForest River 管理の里山を保育フィールドとして貸していただいている。団体会員として、イベントスタッフとして関わっている。(ようちえん職員・保護者・園児)
- ③保育フィールドの使用や整備等の相談や要請。イベントの内容相談。ウィズ・ナチュラの秋祭りの共催支援等。



(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	ただ自然に触れるだけでなく、そこで世代を超えたたくさんの人とも触れ合うことで、自然の中にある多様性や人の世界にある多様性を感じることが出来ます。そこで自分が感じていることは目には見えないけれど存在していること、ありのままの自然や自分ではどうすることもできない四季の移ろいや天気の変化にも柔軟に受け入れることができます。
自然的特性	四季を1年でも経験すると、もうそろそろ冬イチゴがなる、とか、アカハライモリはもうすぐ出てくるかな?とか、里山に生きる動植物のことを思い巡らせるようになります。誰も教えてはないけれど、子ども達にとって自分の心が動いた経験や思い出は大人に知識として教わることより心に残ります。そして、とてもよく観察しています。
管理・維持	森林や里山整備は森のようちえん関係者はこれまで経験がないこともあって、整備の仕方やかマドやベンチなどの設置に関してレクチャーやお手伝いをしていただけることはとてもありがたいです。子どもの親世代がそれを引き継ぎ、子ども達や次世代にも伝えられるようにと思っています。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	6 つながり尊重する態度 自分の命や存在は、日々過ごしている森からの恩恵をたっぷり受けていることを、保育以外での機会に気づくことができる。多様な考えや価値観に出会うことの豊かさ、人や環境の中にある自然を見つめ、自分(本当の気持ちややりたいこと)を知る機会となっている。子どもが自ら学んでいける環境を大人が考えて作っているその姿を見せることが何よりも大切だと感じている。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	4 コミュニケーションを行う力 日々の保育でも自分の思いを自分の言葉で伝えるということを大切にしているので、自分で見て感じて考えて動くということがベースとなっている。保育以外のこういった機会でもまずはこの日の活動の意図や目的などは聞いた上でどうするか自分で決めて動く。困ったことなどは自分から聞く、新しい友達や目下の子には助けてあげることができる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	5 他者と協力する態度 他者と協力するというのも、大人がやっていないと子どもはその本質的な意味がわからないと思います。なので、まずは大人がやって見せるところから。そうすれば、教わらなくとも子ども達は自然と協力し合います。目上の友達からしてもらって嬉しいことは目下の子にやってあげたくなる。そういう機会が沢山あります。

(7) 実施後、参加者の変化

一番は保護者や職員の大人の意識や行動が変わりました。やりたい人が率先して参加し、子ども達や未来を思いながら意欲的に活動する姿は子ども達にとってもとても良い体験をなっていると思います。イベント的に終わらず、一人一人の人生の中に森林や自然の営みが意識として入っていると感じます。森のようちえんに通わせる親御さんは入園前まではここまで意識を必要とするとは思っていなかったはずですが、子ども達を通して自然とそうなったことが大きいです。

森のようちえんウイズ・ナチュラ



「ウイズ・ナチュラ」＝自然と共に

私たちが考える自然とは、ただ山や森ということだけでなく、「生きている」として自然。まだ小さい子どもたちも自然そのものです。

自然の中で自然な営みを見守り、育む

子どもは、人から教えられて学ぶのではなく、自然の中から自ら学び取ります。

自然の中で感性を培い、大人も子どもも共に育ち合う
『共育の場』

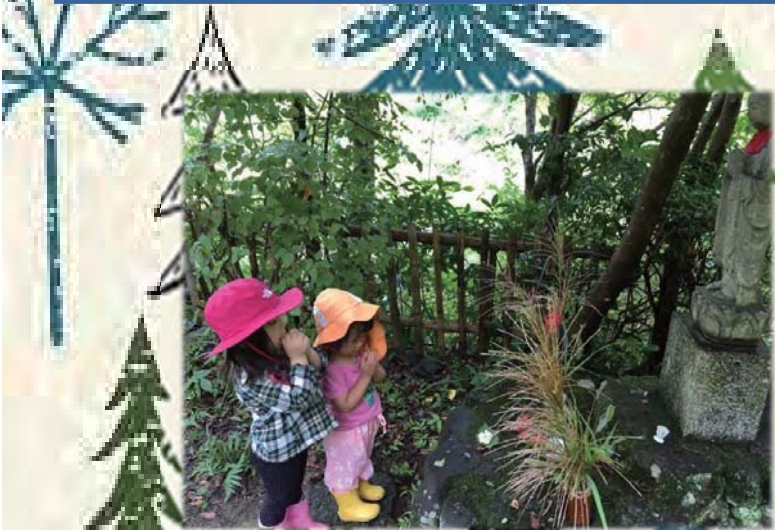


森のようちえんウィズ・ナチュラ理念

○子どもひとりひとりの持つ無限の可能性と成長のプロセスを信じて待つ

○自然の中でただ遊ばせるのではなく、子どもの自主性と心、体を育む保育実践

○生きとし生けるもの全てへの感謝の気持ちを育み、人としての在り方や生き方を学ぶ



明日香森林環境教育フィールド 『Forest River』



代表：森川生一

フィールド

ベースフィールド	学習スペース	『ホテル見台』	
	黒米田	『神奈備舞台』	
里山フィールド	学習スペース	竹林育成スペース	
	果樹栽培スペース	キノコ栽培スペース	
	白米田	野菜畑	キウイ棚
	倉庫	森の幼稚園活動スペース	
間伐実習フィールド	体験スペース	実習スペース	
	倉庫		



森のようちえん ウィズ・ナチュラとの連携 夢が大きくなった！①

☆小学生対象のイベントづくりから、家族・園児を対象を含めたイベントづくりにシフトしてきている。

⇒参加者の生活に染み通る体験にしたい！

☆里山フィールドづくりも、体験イベントの場から遊びの場にシフトを初めている。

⇒園児が安全・安心して活動できるフィールドづくりにより、誰でも楽しく自然を体感できる場にしたい！



森のようちえん ウィズ・ナチュラとの連携 夢が大きくなった！②

☆私たちのイベントスタッフになっていただき、若いスタッフや保護者の皆さんから刺激をいただいている。今は私たちにとって、欠くことができない存在になった。

⇒10年後の活動継続を目指し、老人集団から老若男女の集団に変身していきたい！

⇒若い皆さんの力を借りて、私たちができなかったことにも取り組みたい！



森のようちえん ウィズ・ナチュラとの連携 夢が大きくなった！③

☆更に、森づくりにも関心を持つ方も出てきてきており、山中の活動にも参加していただくようになった。

⇒大人向けの林業研修会を開催し、ウィズ・ナチュラのスタッフ・保護者に参加していただき、林業にも関心を持っていただきたい！

⇒除伐・間伐した木材、侵入竹林の伐採により出た竹材の活用を進め、林業再生の道筋を探り、明日香村に住んで林業を仕事にする方を育てたい！



「フィールドづくりに必要なもの」に与えた 森のようちえん ウィズ・ナチュラの影響

活動場所

スタッフ

夢・理念

情報
ネットワーク

資金



続く

代表：森川生一

事務局住所：奈良市西大寺芝町2丁目10-15

Eメール：forest-river@kcn.jp

電話・FAX：090-5120-4350

事例報告 H29-3

団体名： 森のようちえん ことこと・木こりの会（岡山県）

プログラム名： 津山 森のようちえん ことこと	
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に親しむ。 ・日常的に自然との関わり合いを持たせる。 ・命の大切さ、つながりを知る。 ・自然の美しさに感動する豊かな心を持つ。 ・五感を使って遊び、体験し、学ぶ。 ・子ども達の生きる力、探求する力を育む。
(2) プログラムの概要	津山 森のようちえん ことことは、平成29年（2017年）4月に開園した 岡山で最初の常設型森のようちえんです。11月から地元の森林ボランティア団体・木こりの会の活動フィールドを使わせてもらいながら、子どもたちと森の中で週五日活動しています。
(3) プログラムの展開	
時間数	プログラムタイトル
	活動内容
in、about、for の視点で活動内容を区分	
森のようちえん 春（4月、5月、6月）	
里山と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> ・里山で自由に過ごしなが、植物・動物・気温・雨・日差し等を五感で感じてもらう。 ・里山の色々な場所に連れて行き、その場所と親しくなるきっかけを与える。 ・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先し、大人は子どもの興味関心を観察する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。
in-自然、森林に関する関心・意識を高める。	
森のようちえん 夏（7月、8月）	
川・水と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> ・川で自由に過ごしなが、植物・動物・太陽の日差し・水の気持ちよさ等を五感で感じてもらう。 ・川で魚やカニと一緒に探して、川と親しくなるきっかけを与える。 ・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先し、大人は子どもの興味関心を観察する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。
森のようちえん 秋（9月、10月）	
火と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> ・焚き火をしたり野外炊飯をして、火と仲良くなる。 ・焚き火をマッチ一本から自分で作ってみて、上手に燃やすための手順を学ぶ。 ・火の危険についても、事前に十分に説明する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。
森のようちえん 冬（11月、12月、1月）	
雪と仲良くなる	 <ul style="list-style-type: none"> ・雪の中で自由に過ごしなが、雪の美しさ・冷たさ等を五感で感じてもらう。 ・雪遊びの中で雪と親しくなるきっかけを与える。 ・子ども達が自分たちで考えて自然と遊ぶことを優先し、大人は子どもの興味関心を観察する。 ・対話を通して、子どもたちの感じている事・心の動きを引き出す。

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 津山市役所 活動場所(久米山)を提供する。木こりの会の共同事業者として、木こりの会の活動資金を提供する。
2. 木こりの会 久米山の一部の森を森林整備する。
3. 津山 森のようちえん ことごと 森で幼児を預かり週五日活動する。4歳児未満の親子を対象にした森の親子広場を週2回開催する。



(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
感性的経験	里山や川で日常的に過ごすことで、身近な自然環境を知る。自然にどっぷりつかって、春・夏・秋・冬の自然の移りかわりをおして自然を学んでいく。
自然的特性	動物、植物をみたり、鳴き声を聞いたり、触れたり、観察しながら豊かな自然に触れる。
多面的機能	森の木を使って焚き火をしてお昼ご飯をつくる。木をナイフで削ってお箸を創る。森から色々な恩恵を受けることができるということを知る。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)

項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	里山で活動することで、動物や植物と仲良くなりそして関心・興味を持って知りたい思う土壌を作る。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	コミュニケーションを行う力 日々の活動の最初と最後に、皆で輪になってみんなの感じている事を聞き合う時間がある。その時間で、他者理解と自分自身の理解を進める、そして表現力を養うことができる。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	人工的に用意された遊び道具が無い里山では お友達と協力して遊びを創っていかないといけない。そのような環境で自分のやりたい遊びを実現する為に、子ども達は協調性や協力して何かを実現する事を身につけていく。

(7) 実施後、参加者の変化

<子ども>

自分たちで日々の遊びを考え、その時折にぶつかったり 協力しながら 自分たちの遊びを創り上げていく事により、自分たちで創造していく力、仲間と協力して行動するという協調性が成長した。

<保護者>

自然の中で子どもと関わると、楽しい 安心できる いつもより落ち着いて子どもと接する心の余裕を感じた。その自然の力に驚きを感じた。



自然の中で 子育てを

森のようちえん ことことは、岡山県津山市の里山で活動する認可外保育施設です。

子どもたちの生きる力を育むため、一人一人の個性を大切にしながら、自然と共に子どもたちの育ちに寄り添いながら活動しています。

私たちが大切にしていること

自然は友達



自然は、一人として同じでない子どもたちを受け止めるパートナー。毎日自然の中で活動しています。

自分を生きる



やりたい！気持ちを大切に、子どもと共に活動を作っています。

子どもと大人共に育つ



地域の全体が学びのフィールド。地域の大人達と共に育てています。



問い合わせ: kotokotomorimori2017@gmail.com



わたしたちは、嵐の日も、おだやかな日も、
夜も昼も冒険にでかけています。
それは、なにかを教えるためではなく、一緒に楽しむためなのです。

子どもと一緒に自然を探検するということは、
まわりにあるすべてのものに対するあなた自身の感性に
磨きをかけるということです。
それは、しばらくつかっていなかった感覚の回路をひらくこと、
つまり、
あなたの目、耳、鼻、指先のつかいかたをもう一度学び直すことなのです。

レイチェル・カーソン



ようこそ、八瀬野外保育センター

八瀬野外保育センターは比叡山のふもとにひろがる約7000坪の自然林です。八瀬は保育園連盟の宝。自然がぐっと身近になる場所です。まだ行ったことのないあなた、もったいないですよ！子どもたちといっしょに八瀬に出かけてみましょう！まずはベーシックな日帰り利用をご紹介します。

八瀬へは送迎バスが便利。利用日の3ヶ月前の1日から7日までファックスで受付後、抽選しています。



ふもとの
駐車場に
到着

AM
10:00
ごろ



今、お山で
見られる
もの

坂道を登って
センターに
到着！



はじめに
お山のおやくそく
おさるの目は
「み・な・い」



さあ、
散策へ
出発



長袖、
長ズボンが基本。
防虫スプレーも
忘れずに



魔女が
住むという
もりの家が
みえてきました



まじよさん、
こんにちは、
いますか？

カプト小屋で
カプトムシを
チェック



飛べ!!



広場の
つきやまで
あそびます



野外
テーブルで
お昼



あー
汗かいたー



またきてな!

いっぱい
遊んだな!
バイバイ、
またくるわ!

バスの待つ
駐車場まで
坂道をくだります



pm
2:00
ごろ

興奮マックス!!
土俵でしたー!
相撲大会の
はじまり



お昼を
食べたら

テラスで...
何が
できるの？



八瀬の「おいしい」

野外で食べる料理は
また格別。
石窯をつかったら、
こーんなことも
できるんです。



2基ある石窯



ローストポーク
分厚く切ってね

石窯といえば
ピザ



ホイル包み焼きも
ホクホクに



パンにも挑戦



ダンボールのそり、
ひゃっほー



お泊りの夜はキャンプ
ファイヤーでいい感じ

八瀬の「たのしい」

めいっぱい八瀬の自然を
感じたいから…！
いろんな楽しみ方を
さがしてください。



ケーブルで
足をのばすのも
すてきです



雪遊びものびのびと



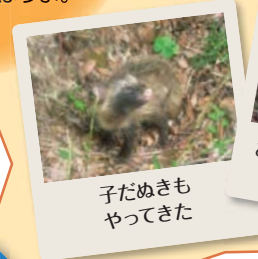
工作の素材の
宝庫です

八瀬の「重カ物たち」

子どもたちの笑い声に
誘われて動物たちも
やってきました。
いっしょに遊ぼうよ。



巣箱にやってきた
ムササビ



子だぬきも
やってきた



おなじみの
おさるさん



ひきがえるの
ひーちゃん
事務所前にいますよ

子どもたちが大好きな
かえるくん、クワガタくん



八瀬の 四季 おりおり

春



自然豊かな八瀬は1年に
わたっている景色を
見せてくれます。
みなさんは
どの八瀬が好きですか？

夏



冬




秋

今回ご紹介したのは八瀬の魅力のまだまだほんの一部です。
まずは山を吹きわたる風や土の湿り気、緑のにおいを感じて
いただくのがいちばん。
秋深まる八瀬野外保育センターにぜひお越しください。

みなさんが楽しむお手伝いをします。
一度来るとやみつきになりますよ！

事例報告 H29-5

団体名： 吉野町教育委員会・町立わかばこども園（奈良県）
森林インストラクター

プログラム名： わかばこども園「森と遊ぼう」		
(1) プログラムの目標	わかばこども園のもつ教育資源（自然環境・地域人財力・幼稚園型施設としてのこれまでの実績等）を活用した取組を通じて、ふるさとに対する理解や愛着を深め、将来にわたって地域を大切に作る気運を醸成する。また本町の「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組（木育）のひとつの実践の場として、森と水の関係の理解を通して本町の地勢的特性である豊かな河川・森林とふるさとの歴史・文化・産業の関わりを森での遊びを通じて学びきっかけをつかむ。 子供達が、年齢の垣根を越えて意図的に交流できる場をつくり年下の子供は、年上の子供の活動を見て学び憧れを抱き年上の子供は年下の子供の世話をし、教えることに自信を持ち、思いやりの心を育てる。社会性や協調性を自ら学んでほしい。	
(2) プログラムの概要	これまで、わかばこども園区に在住されている森林インストラクターと保育教諭が連携して実施してきた本園の「森と遊ぼう」活動は、平成29年度は、本町の地域おこし協力隊4名（木工担当・木育担当）の活動支援を受けることとなり、園との連携の輪が広がっている。吉野の四季の移ろいにあわせて、年間5回にわたり園外活動として実施。インストラクターのドイツでの森の幼稚園のお話から始まり、七夕まつりに使う笹竹取りで森に入り、また「森の不思議を感じよう」をテーマに地域の森でふるさとの昔ばなしを聞いたり、園児みずから拾い集めた自然物を使ってのネイチャークラフトづくり、年長児は活動を通して感じたことを森の中や園内で友達や保育教諭に発表するふりかえりを取り入れたプログラムとなっている。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
年間計画 3時間 活動打ち合わせ 2時間×5回 下見 2時間×5回 計23時間	森と遊ぼうのための準備 森林インストラクターとの打ち合わせ 地域おこし協力隊との打ち合わせ インストラクターとの現地下見 年間活動プランのテーマの共有 	保育教諭に森と遊ぼうについて理解してもらう。 下見により、森林体験が少ない保育教諭に実体験させる安全対策として服装や支援児童への配慮など注意すべきことを互いに確認 プログラム実施の役割分担を明確化 当日の服装等の保護者への注意喚起・当該活動への理解・情報共有
	about 情報の共有、安全対策	
約30分×5回 計2時間半	森と遊ぼう プロローグ 森のおじさんのお話 森林インストラクター・協力隊の森と木のお話	活動連携者との出会いを森と木の話を経由して園児に印象づける。 保育教諭は、活動連携者の話を日常の教育保育活動へ結びつけながら、はじまろうとする園外活動への期待の高まりが伴う森への関心を引き出す。 
	about 子供達へのファーストメッセージ 森への誘い 対話	

約1時間半×3回 約4時間×2回 計12時間半	森と遊ぼう	プログラム中に設定された設問内容の活動補助者による語りかけ 気づきを言葉に表現して質問 森でのクラフト・ゲームの展開	活動補助者が指導する。保育教諭は、子供達が表現すること（かたち・言葉）を深く観察し、個々の気づきを全体で共有させる機会を逃さない。 個々の子供達の気づきを大切にする。
	in 森の中での体験		
2時間×5回 計10時間	ふりかえり	保育教諭と活動連携者との活動のふりかえり	森と遊ぼうの活動後に活動全体の良かった点や改善点についての話し合い、情報共有をすることで、より良い活動にしていく。保育教諭と活動連携者との活動への想いの確認、活動のねらいの共有。
	about 森と遊ぼうの分析 情報交換 討論		
	園内活動とのつながり	年中行事との接続（七夕まつり：園内活動で、飾り短冊づくりを行い、飾るための笹を森から切り出す等） 森で採集した自然物と木片を利用した作品づくり	園内活動と園外活動の接点を上手く生かして、森の中での子供達の内的心象の継続を図り、定着化をおこなう。 園外活動で得た素材を使った園内活動での表現活動の更なる展開。
	for 森の中での体験を園内活動に活かす		
<p>(4) プログラムでの連携内容 (教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)</p> <p>①森林インストラクター ②専門的領域からの保育教諭、園児への助言・指導／地域住民としての教育保育活動への参画 ③プログラムづくりへの参画・地域の教育資源活用への働きかけ、連携コーディネート／所有林の提供／フィールドの整備・安全な環境の維持</p> <p>①地域おこし協力隊（木育・木工担当） ② 園外活動の支援／森や木に関わる園児へのメッセージ／専門的領域から保育教諭の木育への助言・園内活動の支援 ③ 園外活動の安全確保への支援／プログラムの多様な展開を可能とする各専門領域でのノウハウ提供</p>			
			

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目	
教科・項目、視点	学習内容
1 感性的経験	「森林の感覚的把握・美的把握」 足から伝わる土の柔らかさを歩きながら感じ、森の中でハンモックに揺られて木漏れ日を見上げ、川に手をつけ水の冷たさに驚き、山の頂上からの景色を見て、自然の心地よさや自分たちの育つふるさとの美しさを感じる。
2 自然的特性	「地域環境への関心・森林体験」 身近にある森に入り、吉野では昔から山や木と人が寄り添って生きてきた歴史があることを肌身で感じ、自然環境と人との関係についての関心を高める。 (山に入る時は山の神様に挨拶をする) ハンモック・竹の滑り台・丸太のシーソーなどの森林体験があることで、森のおじさんの話(木の特徴や自然の生態について)をより興味を持って聞くことができる。
3 多面的機能	「暮らしの中にある森での体験と、園内活動への広がり」 園児が採集してきた自然物を使った制作や、園内の木エコーナールの設置など、園内で日常的に森や自然を感じられるような環境づくりがされている。園では森での体験とは違い、作りたいものをイメージする想像力や、試行錯誤し作り上げる集中力が培われる。またものづくりの中から生まれた異年齢の園児のコミュニケーションなどもあり、森と遊ぶ活動が多面的な機能を持っている。
(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)	
項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	「3 多面的・総合的に考える力」 森林インストラクターから、ふるさと吉野の昔のことや、自然の生態や特徴について話を聞く。 また、その時にイラストを使ったり、体験を取り入れることで子どもが興味を持てるようにする。 道具(のこぎり・金づち・ドライバー・釘・ビス)の扱い方を習得する。 自然の知識や、道具を扱う技能を、体験を通して学び、園外・園内のどちらの環境においても子どもたちが身近に感じられるようにすることで、ふるさとの自然と自分たちの暮らしについて多面的・総合的に考えるようになる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「4 コミュニケーションを行う力」 様々な素材を使い、表現を仕方を考え工夫して作ったものを、友達や保育者の前で発表する。 年長児は園内に設置された木エコーナールで木片を利用して作ったピタゴラスイッチ(どんぐりを転がすゲーム)を友達同士で相談し合い、どうすればうまく転がるコースができるかを考えて制作していた。 さらに、それを小学校1年生との交流会で発表し、自分よりも年上の児童と一緒に遊び、意見をもらうことで新たな課題や発想力を得た。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「7 進んで参加する態度」 森林インストラクターや地域おこし協力隊と森や木、自然に関する対話の中で興味を持ち、自ら学ぼうとする意識を身につける。 長い森の道のりを自分の足で歩ききる、高いところにある木の橋を1人で渡り切る、ロープを使って急な斜面を登るなど、成功体験を積み重ね、自らまた新しい目標設定をして挑戦する力を身につける。 年中児が木工作で難しい部分を、年長児に助けをもらい、作品を完成させるといった様子が見られるように、年齢を超えた森と遊ぶを通して生まれた関係性がある。
(7) 実施後、参加者の変化	
保育教諭の中に、森と遊ぶ子供達の感動を園内活動にも積極的に取り入れようとする姿勢が生まれ、園教室内に木エコーナールを設置、教室内で木とふれあう機会を創出している。	
園児に、森での森林体験のきっかけに、主体性をもった行動が芽生えている。また、園外活動と園内活動に連続性が生まれ、森への関心が日常の園生活の中で遊びの中に取り入れられている。園庭の木々にも関心が高まった。	

吉野町の木育が目指すもの

～木とふれあい、木に学び、木と生きる～

- Step1 **木とふれあう** …様々な木にふれ、木の良さを感じる。
- Step2 **木に学ぶ** …木の特徴や性質を学び、知識や技術を身に付ける。ものづくりを通して、地域資源の良さを学びます。
- Step3 **木と生きる** …木材利用や森林育成、環境保全の繋がりを理解し、地域の産業・歴史・文化・社会と自分の関わりを知る。木を通して、ふるさと吉野の愛着心を育み、互いの個性を認め、尊重しあえる人となる。

◆ Step1 から Step3 までを循環させて『生涯木育』を目指します。

吉野町で育つ子どもたちは年齢に応じた木とのふれあいを積み重ねています。
木でつながった人々が、さらに周りの人と木にふれあうことで
木のまち吉野町の木育の輪を広げていきます。

ファーストイブプレゼント

生まれた赤ちゃんに、町内の人が吉野材で作った木のおもちゃを贈ります。出生届出時に、役場でカタログと申込用紙を配布し、申込受付後、希望されたおもちゃを乳児検診の際に保健センターでお渡しします。



よしのこども園
「木と遊ぼう」

製材所の端材や、園の木製玩具、かんなくずプールなどで遊び、吉野の木にふれます。木を使った工作もします。(年に4,5回)



吉野小学校「桜の活動」

吉野山の桜の種を拾い、育てて、吉野山に植樹するという活動を学年ごとに役割分担して、学校全体で取り組んでいます。



吉野中学校
「愛 学習机プロジェクト」

吉野ひのきで作られた天板キットを、入学前の春休みに地域の大人たちと一緒に組み立てます。3年間使った天板は卒業と一緒に持ち帰ります。



子育て講座「木育」

未就園児対象にこども園で行われる子育て講座で、年に2回木育をテーマに講座をします。木のお話を聞いて、木のおもちゃにふれて親子で遊びます。



わかばこども園
「森と遊ぼう」

森でシーソーや、すべり台、ハンモックなどの遊びを通して、吉野の木や自然にふれます。木の実などの自然物を使った工作もします。(年に4,5回)



吉野北小学校
「手漉き和紙の卒業証書製作」

学校で育てた楮(こうぞ)の木の樹皮を使い、地域の和紙職人の方に協力してもらって、自分たちの手で紙を漉いて卒業証書を作ります。



ともしび
「吉中友灯工房」

吉野にある素材(杉・檜・割箸・和紙等)を活かした照明器具づくり。平成14年から取り組んでいます。



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 さい

両こども園

- 「木製玩具導入」
- 「入園記念木製メダル」
- 「卒園記念木製たて」



両小学校「木育授業」

図工の時間に吉野材や自然物を使った木工作を行います。吉野の木にふれ、木の特徴や道具の扱いを学びます。(今年度より年に1単位。吉野小1・3・5年、吉野北小1・4・6年)



吉野小学校

「製材所・割箸工場見学」
地域産業である吉野材を加工している製材所や、割箸工場を見学し、調べたことを発表します。



吉野北小学校

「森林セラピー体験」
龍門岳でハンモックや川遊びなど、山や森の良さを感じて、セラピーをより良くする企画を考え提案します。



【お問い合わせ】吉野町教育委員会事務局 TEL: 0746-32-0190

吉野町立認定こども園

わかばこども園

～木とふれあい、木に学び、木と生きる～ 吉野町の『木育』



森と遊ぼう

吉野町立認定こども園わかばこども園（幼稚園型3～5歳児）では、森林インストラクターや地域おこし協力隊と連携・協働して、ふるさと吉野の森や神社等をフィールドに「森と遊ぼう」という園外活動を年に5回程行っています。

●年間計画 ※平成29年度

第1回 6/29(木)

「阪口さんの森に入ろう～夏～」

第2回 10/10(火)

「阪口さんの森に入ろう～秋～」

第3回 10/25(水)

「木や木の実を使って作ろう」

第4回 11/6(月)

「龍門の滝を目指そう」

第5回 1/19(金)

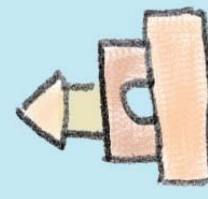
「ハチコ谷を登ろう」



吉野町立認定こども園

よしのこども園

木と遊ぼう



●「森と遊ぼう」のある1日

9:30

森へ到着（園からバスで10分程度）
森林インストラクターと協力隊の紹介。
森林インストラクターから森での約束事を聞く。

9:45

森で遊ぼう（サーキット）

①ハンモック体験・崖登り

②竹の滑り台

③丸太のシーソー・橋渡り

3つの縦割りグループに分かれて①～③をローテーションして遊ぶ。

10:15

休憩

10:30 森のおじさんの時間

『ズームアップを探そう』

チームに分かれて、木の葉や草花の写真と同じものを森の中で探す。



見つけたものを発表。

11:00

七太の竹を切る。

森林インストラクターと協力隊が切り、

子どもたちが竹にくっつけたロープを引っ張って倒す。

11:20

ふりかえり



帰園準備・挨拶

帰園・給食



吉野町立よしのこども園（幼保連携 型0～5歳児）でも、地域おこし協力隊と連携・協働して、木のおもちゃ

やかんなくず・木の玉ボールなどで遊んだり、木材や自然物を使った工作をする「木と遊ぼう」という活動を年に4回程行っています。

●年間計画（※平成29年度）

6月 「木にふれて遊ぼう」

～木のお話①木は何を食べるの？～

9月 「たたき染め」

～木のお話②杉と桧の違いって？～

10月 「秋のトンネル作り」

12月 「楽器を作ろう」

～木のお話③木の音について～

